

浜松市内を歩いていると、ふと、町内会の施設である公会堂とその隣に必ずある屋台置場に目が留まることがある。それはいずれの町内においても比較的新しい立派な建物が多く、その立地もビルの間や住宅街のご真ん中などに堂々と建っていることが珍しくない。それは他の政令指定都市においてはあまり見られない情景であると思う。

450年の歴史

理由の一つとして考えられるのは、浜松は政令指定都市でありながら、毎年市を挙げた大きな祭りが開催されることで、それが「浜松まつり」である。浜松まつりは450年ほどの歴史を持ち、毎年ゴールデンウィークの5月3～5日の3日間開催され、屋

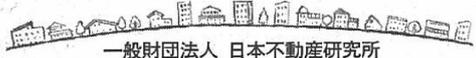


町内の顔になっている公会堂と屋台置場

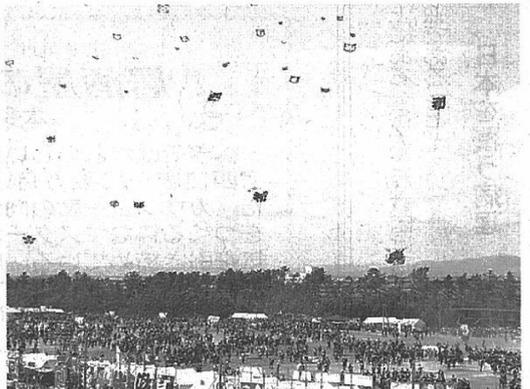
町揚げ合戦をし、夜は市内中心部で御殿屋台の引き回しを

～文化的歴史的所産を巡る～ 残したい情景

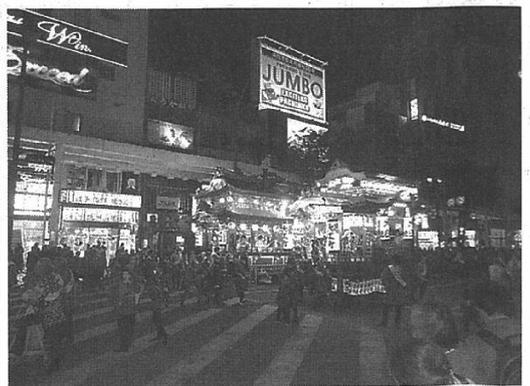
第4回 静岡県・浜松まつり



一般財団法人 日本不動産研究所



町内の威信をかけた凧揚げ合戦



夜に繰り広げられる御殿屋台の引き回し

大型連休の広域な一大イベント 174もの町が結びつく

する祭りだ。毎年約150万人の人手が集まる全国でも有数のお祭りである。

凧揚げは戦国時代の頃、引馬（現在の浜松）城主の長男の誕生を祝って、凧を揚げたことが起源と言われているが定かではないようだ。しかし、今でも初子の誕生を祝い、健やかな健康を祈って「初凧」を揚げるという一面もある。凧揚げは各町内ごとに威勢の良い掛け声やラッパの音が鳴り響き、「糸切り合戦」という町衆同士が互いの凧糸を

戦いである。

夜になると祭りの舞台は市内中心部に移り、提灯の明かりを灯した御殿屋台の引き回しが始まる。屋台の上では子供たちが笛や太鼓のお囃子を演奏し、賑やかなラッパの音も鳴り響き、優雅なムードの中にも威勢の良さが感じられる。なお、屋台は1台につき100～120点の彫刻が施されている。華麗で豪華な造りとなっているため、「御殿うのは希薄になっていくもの

だ」と思っていたが、浜松においては政令指定都市でありな

若者の流出続く

一般的には、都会であればあるほど地域との関わりというものは希薄になっていくもの

がら、浜松まつりという一大イベントがあるため、町内の結びつきが強く、公会堂と屋台置場がその町内の中心、そして顔になっている。

浜松市は大都市への若者の流出等により人口減少が続いているが、他の都市にないこの祭りを通して、地域を活性化させる方向に働いて欲しいと願いたい。その強い町内の結びつきがこの立派な公会堂と屋台置場に現れているような気がする。浜松で暮らす人々にとっては当たり前のものであると思うが、それはお祭りを通じた強い町内の結びつきが地域に根付いている浜松らしさそのものである。ビルの合間に佇むその情景をいつまでも大切にしたい。（浜松支所／不動産鑑定士・成瀬智也）